

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」

『税を納めることの大切さについて』

町田市立南大谷中学校 3学年 保阪 優奈

私には、薬剤師になる夢がある。薬剤師になるには、薬学部に六年間かよい、国家資格をとる必要がある。私には下に弟が二人いて親にそこまで負担をかけられない。

そこで調べたのが「奨学金」である。昔は自分で働き、返済しなければならなかった奨学金制度だが、二〇二〇年の四月から新制度がスタートしていることが、調べてわかった。この新制度とは、「給付奨学金」といい返済不要である。世帯収入の基準を満たしていれば、成績だけで判断せず、しっかりとした学ぶ意欲があれば支援を受けることができる。給付対象となれば、大学等の授業料・入学金も免除もしくは減額されるというすばらしい制度だ。この財源には「税金」が使われている。さて、税金にはどんなものがあるのだろうか。

私が一番身近に感じる税金といえば「消費税」だ。二〇一九年十月から、八%から十%に上がった。消費税が増加すると、文句を言う人が多い。たしかに私もそう思っていた。だが、デンマークの消費税は二十五%もある。それでも、高いと文句を言う人がいない。なぜなら、デンマークでは教育費は、幼稚園から大学まで無料で、病院も無料であるからだ。高い税金を払った分、国民の生活が楽に

なると考えたら、日本の消費税十%は安いと思う。今は中学校までが義務教育とされていて、私達が普段使っている教科書も税金でまかなわれている。もちろん、学校を建てるのにも税金が必要だ。そう考えると、人が生きてく上で税金を払うことはとても大切なことだとわかる。私達が意識していないところで、税金という形で国民全員が人を助け合いながら生きていることはとても素晴らしいと思った。しかし、国民全員が税金を払っているわけではない。納税は国民の義務だが、経済的な理由で払えない人もいる。また、脱税という犯罪をおかす人もいる。税金の使い道について知らない人は数多くいて、私もその一人だった。一人一人がしっかりと税金の使い道について知ることができれば、滞納者も減り国民みんながよりよい生活を送れるのではないかと思った。

私の薬剤師になるという夢を叶えるには、国からの補助金が必要不可欠だ。つまり税金を払うというのは誰かを助けるという事にも繋がるのだ。

自分が薬剤師になりたいと思ったきっかけは、祖母の薬を調合してくれる薬剤師さんの説明がわかりやすく私も人を支える仕事をしたいと思ったからだ。

今回税金について、調べていくうちに、この「誰かの力になった」という気持ちは、税金を納めることにも繋がっていると思った。今は自分が税金によって支えられて生活しているが、大人になって働くようになったら、しっかりと税金を納めて、社会に貢献したいと思う。